

[ ブーケ ]

# bouquet



教育芸術社

No. 09

---

終演後、楽屋から出てきた柏木さんにその感動を切々と伝えてみると、柏木さんから思いがけない提案をもらいました。

「森沢さんの小説『エミリの小さな包丁』を読んで感動したので、ぼくにテーマ曲を作らせてもらえませんか？ 次のアルバムに収録したいんです」

そんなに嬉しい申し出を断るはずありません。ぼくは二つ返事でオーケーして、がっちり握手を交わしました。



それからしばらく経って、柏木さんは本当に『エミリの小さな包丁』のテーマ曲を完成させ、アルバムのレコーディング現場にぼくを招いてくれました。スタジオには、いろんな楽器の奏者が次々とやってきては、それぞれの演奏を重ねながらレコーディングしていきました。

そして最終的にすべての音が合わさった楽曲を聴いたとき、ぼくは背中に鳥肌を立てました。なぜなら、ぼくの頭のなかに、鮮明かつ美しい映像が流れたからです。しかも、その映像は、ぼくが『エミリの小さな包丁』を書くときに脳裏に描いていた映像そのものだったのです！

それは「文字と、音と、想像」の世界が、見事につながり輪廻した瞬間でした。

まず、ぼくが頭のなかで想像した世界を文字（小説）にし、それを読んだ柏木さんが頭のなかで想像（映像化）し、さらに音（楽曲）へと変換してくれました。そして、その音を聴いたぼくは、ふたたび最初の想像の世界とめぐり逢ったのです。

いやはや、柏木さんには本当に貴重な経験をさせてもらいました。

ぼくたち人間は、生きていけば当たり前のように、辛いこと、嫌なことと遭遇します。これは誰しも避けられませんが、でも、ぼくらは「気分」を変えることならできます。

世界は変えられなくても、

気分は変えられる

これは『エミリの小さな包丁』に書いた一節です。

どうせ一度きりの人生ならば、一秒でも長い時間を「いい気分」で過ごしたいですよ？ そのためにも、優れた小説や音楽を利用して、「想像力の翼」を広げ、自由自在にあなただけの「心の旅」を愉しみましょう。

その旅から帰ってきたとき、あなたはきっと「前より少し豊かなあなた」になっているはずです。

#### 森沢明夫（もりさわ・あきお）

小説家。1969年、千葉県生まれ。早稲田大学卒業。日韓でベストセラーとなった小説『虹の岬の喫茶店』は、吉永小百合主演映画「ふしぎな岬の物語」として公開。さらに、高倉健の遺作となった「あなたへ」や、有村架純主演の『夏美のホテル』もヒットし、小説もベストセラーとなった。他にも『津軽百年食堂』『ライアの祈り』『癒し屋キリコの約束』『きらきら眼鏡』など、映画やテレビドラマ化したヒット作が多い。近著に『雨上がりの川』『キッチン風見鶏』『ぶくぶく』『森沢カフェ』などがある。

#### Information

『エミリの小さな包丁』（角川文庫）[760円＋税]  
同テーマ曲が収録されたCDアルバム『VOICE』（HATS）  
[3,000＋税]  
〈演奏〉 柏木広樹（Vc.）他

## 文字と音は「翼」になる

森沢明夫（小説家）

おもしろい小説を書くには「コツ」があります。

それは読者に「映画を観ているような感覚で小説を読ませること」です。

そのために必要なのは「繊細な言葉選び」と「文章の順番を工夫すること」だとぼくは思っています。

たとえば、「夕暮れ時に風が吹いていた。その風が、ぼくの髪を揺らした」という言葉の選び方よりも、「夕日に染まったバイナツプル色の風が、ぼくの前髪をさらりとくすぐった」とした方が、より映像的で感覚的ですよな？

文章の順番を変えても、同じようにガラリと印象が変わります。

「タンポポが咲いていた。それは背が低くて、場所は路地の隅っこだった。路地は細く、住宅街にあり、静かな場所だった」

この順番だと、「タンポポ？」、「どこに？」「それって、どんな路地？」といった具合で、読者の頭のなかにいくつもの「？」が浮かんでしまいます。しかし、これも文章の順番を入れ替えてみると、こうなります。

「静かな住宅街の細い路地。その隅っこに、背の低いタンポポが咲いていた」

どうでしょう？ 頭で理解しやすいうえに、文章が短く

なって読みやすくなりますよな。

「静かな住宅街」「細い路地」「隅っこ」「背の低いタンポポ」と、広い視野からだんだん狭い局所へとフォーカスしていく順番で書くと、読者は脳裏に映像を浮かべやすくなるんです。

◇ ◇ ◇

さて、ぼくがそうやって書いた小説のひとつ「きらきら眼鏡」が、二年前に映画化されました。しかも、幸運なことに、エンディング曲を作ってくれた人気チェリスト・柏木広樹さんと友達になれたのです。

ある日のこと、ぼくは柏木さんのコンサートに招待されました。柏木さんのチェロを中心に、いろんな楽器のスペシャリストたちが集って合奏するという、とても贅沢なコンサートです。客席に座ったぼくは、一流のプロたちが奏でる「音」に感情をゆだねながら、じつくりと自分の心の動きを味わっていました。

すると、ある瞬間から、ぼくの頭のなかにめくるめく映像が流れ出し、頬に風を感じたりもしました。つまり、音楽の世界に「入れた」のだと思います。

そのコンサートが終わったとき、ぼくは「小さな旅から帰宅した気分」に浸っていました。こんな感覚は、はじめてです。

＝ 特別企画2 / オンライン学習応援コーナー #1 ＝

## つくって、うたって、みんながつながる “ニジノエール”

今号では、オンラインで音楽を楽しむための活動やヒントを特集します。  
まずご紹介するのは、小学校用教科書『小学生の音楽3』や高等学校用教科書『Joy of Music』にも掲載されている『にじ』（新沢としひこ 作詞 / 中川ひろたか 作曲）をテーマにした“ニジノエール”という企画。  
一人一人の「にじ」を集めて、大きな「にじ」をかけよう！という呼びかけに、  
子どもから大人まで多くの方が賛同しています。  
発起人の金子しんぺいさん（パントマイムのお兄さん）に、リモート取材でお話を伺いました。



“ニジノエール”とは？

「にじ」をテーマに、アートや音楽を楽しんでほしい。そして、新型コロナウイルスと闘っている世界中の人たちにエールを送ろう！そんな願いで始まった活動です。

「にじをつくって、うたって、シェア。」

「にじ」をテーマに、絵を描いたり、歌ったりして、  
楽しいおうち時間を過ごそう！

その様子を撮影してSNSに投稿することで、世界にエールを発信！  
一人一人の「にじ」を集めて、大きな「にじ」をかけよう！

小さなお子さんからプロのアーティストの方まで、どなたでも参加できます。

「#にじをつくってエール」… にじを描く/並べる/貼る/編む/自由に工作して撮影しよう！  
「#にじをうたってエール」… 『にじ』を歌って/演奏して撮影しよう！（サビだけでもOK）

活動の詳細や参加方法は“ニジノエール”のホームページをご覧ください。  
<https://nijinoehonya.studio.design/nijinoyell-rainbowcheering>





## 金子しんぺい

「パントマイムのお兄さん」として、舞台・映像作品・CM・大道芸・講演などで活動。ノンバーバル（＝言葉に頼らない）パフォーマンス『ギア-GEAR-』イーストバージョンに出演。あおぞらワッペン・おむすびひろばのパントマイム担当。“ニジノエール”企画の発起人。

### Q “ニジノエール”を始めたきっかけを教えてください。

ニューヨークの子どもたちがにじの絵を描いて窓ガラスに貼り、医療従事者や生活を守る人々にエールを送っているというニュースを見たんです。そのとき、日本にはせっかく『にじ』という歌があるのだから、それを歌って世の中にエールを送ることができるのではないかと思いつきました。僕自身、この歌の「きっと明日は いい天気」というフレーズが大好きで、心に雲がかかったときにこそ歌いたくなる曲だと感じています。

### Q どんな方が参加されているのですか？

SNSに投稿された写真や動画を見ていると、「#にじをつくってエール」は、1歳ぐらいのお子さんが窓ガラスにシールを貼っているものから、大人の方が刺繍で表現されているものまでバラエティーに富んでいます。「#にじをうたってエール」も、親子で歌っていたり、プロの演奏家が歌っていたりと、いろいろな動画が投稿されています。音楽教室の先生が生徒さんたちに参加を呼びかけてくださったケースもありました。現時点で、インスタグラムとツイッターを合わせて2,500人以上の参加者がいます。(2020年6月1日現在)

### Q 今後、どんな活動にしていきたいですか？

大きな目標になりますけれど、“ニジノエール”に参加してくださった方々の場所をもとに世界地図に点をつけていって、世界中に虹がかかっているようになればいいと思っています。今までに、ルワンダの子どもたちが現地の言葉で歌ってくれたり、日本のお子さんがフィンランド語で歌ってくれたり、少しずつ広がってきています。また、『にじ』の英語版も公開されています。

『にじ』の英語版である“A Rainbow”をお聴きいただけます（歌：山野さと子さん）。——

<https://youtu.be/F7ZfpUvnWuc>



### Q アートや音楽の魅力とは？

上手下手を超えた「多様性」があるところです。僕は大人になってしまったので、「にじ」といえば雲が2つあってその間にかかる7色の光というイメージだったんですけど、子どもたちが描く「にじ」は色も形もいろいろ。自分がこれだ！と思う「にじ」を自由に表現してくれたらなと思っています。歌い方もみんな違っていてもおもしろいです。公式ホームページでは作詞者の新沢としひこさんによるピアノ伴奏も公開されていますが、参加者はみんな自由に楽器を加えたり、アレンジを楽しんでいたりします。それをご覧になった新沢さんご本人も、「いろんな歌い方にチャレンジしておもしろいね」と喜ばれていました。参加者の皆さんが「#ニジノエール」で検索して、「こんな『にじ』があるんだ！」と多様性を認め合いながら盛り上がり上げていけたらいいですね。



リモート取材での金子しんぺいさん。  
パントマイムを披露してくださいました！

次にご紹介するのは、日本のオーケストラによる取り組みです。

国内外で演奏動画の配信を行うオーケストラが増えており、  
私たちはインターネットを通じて、世界中のオーケストラを観ることができます。  
オンラインで音楽を楽しむための動画配信を行っている3つのオーケストラに、リモート取材を行いました。

次のページを読む前に…… **知っておきたい！オーケストラのこと♪**

**?** プロのオーケストラの演奏会情報を探すには、  
どうしたらよいですか？

日本のプロオーケストラの多くが加盟する「日本オーケストラ連盟」のウェブサイトが便利です (<https://www.orchestra.or.jp>)。このウェブサイトでは加盟する全国各地のオーケストラ37団体が紹介されており (2020年6月1日現在)、各楽団のウェブサイトから演奏会情報を調べることができます。また、海外のプロオーケストラが来日して演奏会を開くこともあるので、ホールのウェブサイトなどを検索してみるのもよいでしょう。

**?** オーケストラの楽団員は、  
どのような人たちですか？

音楽大学で、その楽器を学んだ方が多いです。ソリストとして活躍していた演奏家が、オーケストラに入団することもあります。

**?** 楽団員になるために、  
試験などはあるのですか？

ほとんどの楽団で入団オーディションがあります。ただし、各オーケストラでパートに空きがあるときしか楽団員の募集をしないため、いつでもオーディションを受けられるわけではありません。少ない試験機会を捉えて実力を発揮し、オーディションに合格した演奏家だけが入団できるのです。

**?** プロオーケストラがコンサートをする  
ホールは決まっているのですか？

プロオーケストラには活動の拠点となる本拠地のホールがありますが、本拠地以外のホールでもコンサートを開いたり、地元の音楽祭に出演したりすることもあります。国内ツアー、海外ツアーを行うことも。学校や福祉施設に向いで行う、地域交流や文化活動にも積極的です。

各オーケストラが紹介している動画は、こちらからご覧いただけます。

**教育芸術社「オーケストラ動画紹介ページ」**

<https://textbook.kyogei.co.jp/library/orchestra-movie-link/>



## 学習支援コンテンツを使いたい！

—— ここでは、学習支援コンテンツの探し方をご紹介します。 ——

### ◆ 教育芸術社の音楽科のコンテンツを見たい

・教育芸術社ホームページにアクセスし、「自宅学習支援コンテンツ」をクリックしてください。教科書や教材の音源や動画の他、音楽に関する知識を深めるコンテンツもご覧いただけます。オンライン授業や学習課題の作成などにぜひご活用ください。



#### 教育芸術社 ホームページ

検索サイトで「教育芸術社」を検索し、ホームページを開きます。赤字になっている「自宅学習支援コンテンツ」をクリックしてください。



#### 自宅学習支援 コンテンツ トップページ

目的のシーンや教科書をお選びください。



#### コンテンツ例

再生してオンライン学習の際にご使用ください。リンクはご自由に掲載していただけます。



### ◆ いろいろな教科のオンライン学習コンテンツを探したい

・文部科学省のウェブサイトに臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイトとして「子供の学び応援サイト」が開設されています。学習に必要なコンテンツをお探しください。

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/ikusei/gakusyushien/index\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm)



・検索サイトで「学習支援コンテンツ」と検索すると、さまざまな企業が発信している各種コンテンツが表示されます。

※著作権や使用方法にご注意ください。

# 札幌交響楽団 創立：1961年 首席指揮者：マティアス・パーメルト

愛称は「札幌<sup>さつきょう</sup>」。北海道唯一のプロオーケストラです。年間の公演回数は道内外で120回を超え、2011年に創立50周年記念のヨーロッパツアー、2015年に台湾4大都市での5公演を成功させました。一方で、青少年向け演奏会や学校でのワークショップ、特別支援学校スクールコンサート、福祉施設でのミニコンサートなど、地域と連携した活動も大切に行っています。



©藤井泰生

本拠地：札幌コンサートホールKitara（札幌市）

▷札幌市の観光地でもあり、水と緑が豊かな中島公園にあるホール。

エントランスはガラス張りの窓に大理石の床で広々と明るく、大ホールは北海道の木材加工技術による客席と壁面が美しい。

配信中のおすすめ動画



**札幌映像配信プロジェクト**…室内楽の演奏映像です。モーツァルトや『サウンド・オブ・ミュージック』、『You Raise Me Up』など、現在第10弾まで配信中。（2020年6月1日時点）



**吹奏楽ワンポイントアドバイス**…楽団員による吹奏楽部の子どもたちに向けたレクチャー。公開されているのは、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、トランペット、ホルン、トロンボーン、テューバ、打楽器、コントラバスの全10パート。（2020年6月1日時点）

Interview / **たがのぼる** 多賀登さん（札幌交響楽団事務局長）

**Q** 子どもたち向けの動画「吹奏楽ワンポイントアドバイス」は、どのように企画されたのでしょうか？

演奏会以外に「音楽の楽しさ」を伝えるアイデアを楽団内で募りました。「吹奏楽ワンポイントアドバイス」は、部活動ができない子どもたちに、工夫すれば学校ではない場所でも練習できることを提案したいという楽団員の願いから始まっています。

**Q** オンラインで手軽にできる音楽の学習はありますか？

音楽は「聴く」か「演奏する」が基本です。まずジャンルにこだわらず好きな曲を聴いて、どのように感じるか言葉で表す、そして楽器で演奏してみる、歌ってみることがスタートになります。好きな曲には理想のイメージがあるはず。そのイメージをどのように表現すればよいか、いろいろ試してみてください。

**Q** オーケストラを聴くとき、どのようなことを意識すると楽しめますか？

純粹に好きか嫌いかでよいと思います。その中で、楽器でも曲でも好きなところに注目すると興味が広がります。

**Q** 生演奏で聴くオーケストラの魅力を教えてください。

オーケストラはさまざまな考えをもつ人が集まり、時間をかけて一つのものをつくっていきます。生演奏では音の迫力や圧力とあわせて演奏者たちの思いも感じられます。演奏会で音楽をみんなで共有するとき、何にも代えがたい感動があります。



学校の体育館での演奏



「野外演奏会  
「グリーンコンサート」

©佐藤雅英

# 新日本フィルハーモニー交響楽団

創立：1972年 音楽監督：上岡敏之 かみおかとしゆき

世界的指揮者の小澤征爾さんのもと発足したオーケストラです。本拠地とするホールで練習と公演を行う「フランチイズ」という形式をとるオーケストラは今までこそ少なくありませんが、新日本フィルはこの形式を日本で初めて、すみだトリフォニーホールにおいて導入しました。地元の小中学校や各種施設を訪れたり、音楽家・久石譲さんとのプロジェクトを立ち上げたりなど、下町のオーケストラとして、地元の人々が気負わず音楽に親しめるよう、幅広い活動を盛んに行っています。



©三浦興一

本拠地：すみだトリフォニーホール（墨田区）

▷ 葛飾北斎生誕地や国技館など、日本文化で賑わう墨田区のホールで、観光名所の東京スカイツリーまでは約2キロメートル。1997年のオープン当初から新日本フィルの本拠地となり、現在にいたる。

配信中の  
おすすめ  
動画



**すみだの街角から世界に音楽を！演奏動画 連続配信**…室内楽の演奏映像です。墨田区内の美術館、カフェ、ホテルやレンタルスペースなど、施設や店舗を舞台に、配信のためクラシック音楽を収録したもの。全12回。

Interview / **ながおかだいし** 長岡大地さん（新日本フィルハーモニー交響楽団事務局「すみだの街角から」動画企画担当）

## Q オンラインで手軽にできる音楽の学習はありますか？

今まで授業で習った曲の中から、好きな曲を歌ったり、持っている楽器で演奏したりしてみたいかでしょう。間違えても、アレンジしても楽しければそれでいい。今はウェブで楽器の演奏の仕方なども見ることができます。動画を撮って、みんなで見せ合いっこも楽しいですね。また好きな音楽を耳で聴き取って、楽譜を書いて、それを演奏してみるのもよいかもかもしれません。

## Q オーケストラを聴くとき、どのようなことを意識すると楽しめますか？

オーケストラで演奏されるクラシック音楽は、ポップス、映画のサントラ、ゲームやアニメのBGMなど、皆さんがよく聴かれている音楽の源流にあります。ですからあまり難しく考えず、そうした音楽との共通点を探してみると、より楽しめると思います。

## Q 生演奏で聴くオーケストラの魅力を教えてください。

オーケストラの魅力は、何と言っても60人から80人の人間が**あうん**の呼吸で演奏すること、そして奏でる人も聴く人も全員が音楽を通じて心を通わせることができることです。ぜひ一度音楽ホールで、CDとはまるで違う「生」の音を体全体で感じてみてください。



親子コンサート



「両国」江戸NORENでのふれあいコンサート

# 東京都交響楽団

創立：1965年

音楽監督：おおのかずし大野和士

1964年の東京オリンピック記念文化事業として、東京都が設立したオーケストラです。国際的な評価も高く、2015年には5か国6都市をめぐるヨーロッパ・ツアーも行いました。国内では定期演奏会などを中心に、小中学生への音楽鑑賞教室、多摩・島しょ地域での訪問演奏、指揮者が学校を訪れる特別授業（都響マエストロ・ビジット）、福祉施設への出張演奏など「顔の見えるオーケストラ」として地域の方々との交流を大切にしています。



本拠地：東京文化会館（台東区）

▷「東京にオペラやバレエもできる本格的な音楽ホールを」という都民の要望に応え、1961年オープンした。故前川國男氏の近代建築としても有名。近隣には美術館や博物館、動物園など観光施設が集まっている。

配信中のおすすめ動画



**探検！発見！オーケストラのヒ・ミ・ツ**…楽器の仕組みやオーケストラの成り立ちを解説しています。本映像は、小中学生を対象とした演奏会「音楽鑑賞教室」の事前学習用に各学校へ無料で貸し出しているものを、期間限定で公開中。



©堀田力丸

**都響スペシャル「春休みの贈り物」**…オーケストラの演奏映像です。ドラゴンクエストのマーチやアニメの名曲から、有名なクラシック音楽まで、聴きなじみのある作品がまとまっています。映像は、配信のため特別に2020年3月に収録したものを。

Interview

やまもとともしげ

山本友重さん（東京都交響楽団コンサートマスター）



オンラインで手軽にできる音楽の学習はありますか？

まず音楽を聴く能力を高めることが大事です。世の中は人の心を癒やす音楽であふれています。テレビからも番組の中やCMなどでたくさん音楽が流れてきます。「この曲すてきだな」と感じたら聞き流すのではなく、意識を音楽に傾けて聴きましょう。一緒に口ずさむのもよいですね。



山本友重さん  
©T.Tairadate



オーケストラを聴くとき、どのようなことを意識すると楽しめますか？

オーケストラは大きく4つのグループ（弦・木管・金管・打楽器）に分かれています。音楽全体の中で、一つのグループがどのような役割を担っているかを個別に取り出してみましょう。ほとんどの場合、同時に同じメロディーを演奏することはありません。それぞれがどんな色を加えているかを楽しむとよいでしょう。



生演奏で聴くオーケストラの魅力を教えてください。

オーケストラ演奏は奏者、指揮者の組み合わせが無敵ですので、それぞれが思い描く音の一つの方向にまとまることはたいへん難しく、それだけに皆の思いが集合できたときは信じられない響きをつくり出します。また、同じ演奏は一つとして存在しません。オーケストラと指揮者、ホールなどいろいろな組み合わせで聴くことが何よりの楽しみだと思えます。



©堀田力丸（2点とも）

音楽鑑賞教室



都響マエストロ・ビジット



[ワールドレポート]

# World Report

## 自分から発信する音楽とは

本場ウィーン音楽文化に触れて



Kaori Ashihara

ウィーン日本人国際学校で音楽教師として日々子どもたちと触れ合いながら、現地のオペラハウスでコレペティトゥーア\*としても活躍されている浅原かおり先生。学生時代にピアノ伴奏の魅力に気付いて以来、20年近くウィーンで活動されています。

このレポートでは、浅原先生がウィーン音楽家たちとの交流で得られたことや、子どもたちに伝えたい表現することの楽しさ、そして世界が直面している新型コロナウイルスに関して、オーストリアの現状や今後の授業の見通しについて語っていただきました。

\*オペラの稽古において、ピアノ伴奏をしながら歌い手に音楽表現などの指導を行う仕事。

浅原かおり（あさはら・かおり）

3歳からピアノを始める。2002年にオーストリアへ渡り、ダヴィット・ルッツ教授（ウィーン国立音楽大学）にドイツリート伴奏を、マクシミリアン・チェンチッチ氏（ウィーン国立歌劇場）にオペラ伴奏を学ぶ。ウィーン・ブライナーコンセルヴァトリウムのコレペティトゥーア科（オペラ伴奏）を首席卒業。オペラハウス“Theater L.E.O”所属。2011年よりウィーン日本人国際学校勤務。

### 「伴奏」に魅了されウィーンへ

大学時代、先輩が歌うシューマンのリート『女の愛と生涯』のピアノ伴奏をしたときのことで。歌と対等、またはそれ以上の役割を担うピアノにすっかり魅了され、引き込まれていきました。それからというもの、ジェラルド・ムーア氏など著名な伴奏者の本を読み、「お人よしでいるのが伴奏者なのではない」という信念に共感し、もっと深めていきたいと思うようになりました。

伴奏を勉強するうちにオペラにも興味が出てきて、コレペティトゥーアという職業に憧れを抱くようになります。しかし、日本ではまだ伴奏を専門にした科はありませんでした。大学院を修了後、1年間は中学校の非常勤講師として働きましたが、やはり留学したいという思いは日に日に強くなり、ブルガリアでソロ・リサイタルを催した2001年の秋、トランジットで立ち寄ったウィーンでダヴィット・ルッツ教授に出会ったのです。

ウィーンには私の勉強したいことが全てありました。伴奏科は声乐専門と器楽専門に分かれており、声乐の中でもドイツリート伴奏コースやオペラ伴奏コースなど細分化されています。コレペティトゥーアが職業として成り立っていることから、伴奏を重視する文化があると確信しました。

「日本人の音楽家は、技術力はあるけれど表現力が弱い」ということをよく耳にしますが、私もウィーンに来てそれを痛感しました。先生から「あなたの思うように弾きなさい」と言われても、「思うように」という観念がなかったのでとまどってしまうのです。先生に言われたとおりに弾く、間違いだと言われたら直さないといけないと長年思ってきた私にとっては、正確に弾くことが第一。言われたことを忠実に演奏することには慣れていても、自分から音楽を発信していく感覚は経験したことがありませんでした。



ヴェルディのオペラ『ナブッコ』より。左はピアノを弾いている浅原かおり先生

## 表現力の豊かなウィーンの音楽家たち

自分から発信する音楽とは何か。その答えは、オペラハウス“Theater L.E.O.”との出会いで見つかりました。“L.E.O.”とは、L=Letztes (最後の)、E=Erfreuliches (楽しい)、O=Operntheater (オペラハウス)、日本語訳では「最後の楽しめるオペラハウス」となります。舞台と客席が一体となったオペラのスタイルを確立していて、オーケストラの代わりにピアノ伴奏で進行し、合唱・バレエ・小さい役 (天使や役人など) はお客さんが演じる参加型の劇場です。

私はここでオペラ伴奏のコレペティトゥアをすることになりました。コレペティトゥアはピアノ伴奏をするだけでなく、歌手たちのピッチやブレス、言葉の入れ方、表現方法まで細かく助言しながら舞台を仕上げていきます。

歌手の中には読譜が遅い人やリズムがなかなか取れない人もいますが、表現力は群を抜いています。多少間違えても「それも私」というスタンスで、体全体を使って目一杯表現する。お客さんに楽しんでもらうことが第一で、機械のように全て正確であることよりも、表現豊かに自分らしく演奏することが重視されます。お客さんは間違いを探しに来ているわけではないんです。劇場で働く中で、こうじゃなきゃいけない！という堅物な考えから解放されて徐々に肩の力が抜け、曲に対して自分の思う表現を互いにディスカッションすることもできるようになりました。特に本番では、解き放たれたかのように自由に演奏する皆の様子に、私も一層奮い立たされます。もしも歌手が小節をとばしてしまっても、コレペティトゥアはそれに合わせてすぐに軌道修正しなければなりません。初めは本番でそんなことが起きること自体理解できませんでしたが、今では柔軟に対応できる自信も付き、楽しみながら演奏する余裕が出てきました。



プッチーニのオペラ『ジャンニ・スキッキ』のワンシーン

## 子どもたちに伝えたいこと



ウィーン日本人国際学校での音楽の授業

劇場でコレペティトゥアとして働きながら、もう一つの夢だった「子どもたちに音楽を教えたい」という思いも強くなっていました。そのとき、たまたまウィーン日本人国際学校で音楽教師を募集していると聞き、心が弾んだことは今でも鮮明に覚えています。

子どもたちに教えるときも、コレペティトゥアと同じような感覚があるかもしれません。例えば、私が異なる2通りの歌い方で歌ってみて、「どう違うと思う？この部分にはどんな表現が合うかな？」と問いかけながら子どもたちと一緒に音楽を作り上げていくことは、劇場での仕事に重なります。

私自身が演奏家という立場でもあるので、子どもたちの表現力を伸ばしていくことを目指して授業をしています。自分が何を表現したいのか、どう歌いたいのかを大切にしてほしい。だから、音楽の時間は自由に体を動かせるようにしています。例えば、サン=サーンスの『動物の謝肉祭』では動物の動きをまねながら体で表現したり、ロック・ミュージックに合わせて手や足でリズムを取ったりします。また、雨や雷といったテーマを決め、さまざまな楽器の音色を試しながら即興で曲をつくる活動もしています。



曲に合わせて身体表現をする様子

ウィーンという土地柄、本物の音楽に触れる機会には恵まれていて、ウィーン・フィルのゲネラルプロベ（リハーサル）を聴きに行くこともあります。中には途中で眠くなってしまいうちもいるのですが、その空間にいることが大事なんです。ウィーン・フィル側も、子どもたちに堅苦しさを求めてはいません。団員の方々もゾーンをはいてカジュアルな雰囲気ですし、曲の途中で切れた弦を直しに出ていく方などもいて、柔らかな空気感が漂っています。

「本物」という定義は難しいですけど、作曲者の意図をしっかりと理解したうえで自由に表現できる方々からは、音楽の喜びがあふれています。そのような音楽にたくさん触れて心を磨きながら、生涯にわたって音楽を楽しむ力を身に付けてもらえたらと願っています。

## 学校が再開して

オーストリアも新型コロナウイルスの影響で生活が大きく変わりました。3月中旬から4月中旬まではスーパーと薬局しか開いていませんでした。外出規制も厳しく、ちょっとした散歩も同居人以外とは不可、公園も立ち入り禁止。ベンチに少し座っただけ、知り合いと立ち話をしていただけで罰金が科せられるなどの徹底ぶりです。その影響か、みんな自宅で静かに過ごしていました。

ウィーン日本人国際学校は4月14日に入学式・始業式を行う予定でしたが、1週間延期して21日にオンラインで始業しました。日本から赴任予定だった先生方は渡航できない状況なので、リモートでクラス担任や校長の仕事を行ってくださっています。5月に入り学校にも登校できるようになりましたが、ウィーン市内の学校はクラスを2分割にして交互に登校、<sup>ひまつ</sup>飛沫感染を防ぐため音楽や体育の授業は今学期行わないことになっています。本校は少人数ということで毎日登校でき、音楽科も合唱やリコーダー、鍵盤ハーモニカ以外であれば行ってもよいという許可が下りました。

通常とは異なる状況で、授業内容も工夫していかなければと思案しているところです。低学年はリトミックやわらべうた、ダンスを中心に授業を進めていく予定で、パーランクー（沖縄の太鼓）をばちで打ったり、音を聞き分けながら体を動かしたりしていきたいです。中高学年はリコーダー以外の楽器を用いて合奏をしたり、今年はベートーヴェン生誕250周年なので、ベートーヴェンのことを詳しく調べてまとめたりする予定です。また、ウィーンにゆかりのあるその他の作曲家についても取り上げていきたいと思っています。

しばらくは歌や楽器の演奏が制限されて、もどかしく思うこともあるでしょう。そんなとき、川のせせらぎや鳥の鳴き声、木々のさざめきなど自然の音に耳を澄ましてみてください。これまで気付かなかった音を発見できるかもしれません。私の家の近くには山や川があるのですが、今は飛行機も車もほとんど通っていないので自然の音がいっぱい聞こえます。その中から自分の好きな音を見つけるのも楽しいですし、自然の音から得たインスピレーションを身の回りの物で表現してみるのもよいでしょう。私自身も劇場の仕事がお休みで寂しいですが、今だからこそいろいろなジャンルの音楽を聴いたり、ただただ自分の弾きたい曲を弾いたりしながら、音楽を純粋に楽しんでいます。生涯音楽を楽しめる喜び、これこそが私の求めてきた、そしてこれからも子どもたちに伝えていきたいことです。



ウィーン市内にあるベートーヴェンが暮らした家。「ハイリゲンシュタット遺書の家」と呼ばれ、現在は博物館になっている

上野耕平の  
 C I R O S S I N G [クロッシング]

第7回

スーパービュー踊り子

左が引退した251系。右は伊豆急行2100系、  
 こちらも見晴らしが良く楽しい列車。



コロナ禍にひっそりと引退した名列車。

3月14日のダイヤ改正を以て引退した251系スーパービュー踊り子。斬新なデザインと乗る者をワクワクさせるもてなしで人気を博した名列車だ。1990年デビュー。晩年は伊豆の海沿いを走るため車体の傷みが目立った。コロナ禍によって特にセレモニーも無くひっそりと車生に幕を閉じた。後継には更にグレードアップした列車がこれまたひっそりと走り始めている。この事態が過ぎ去ったら、早く鉄道に乗って出かけたい！

文・写真：上野耕平（うえの・こうへい）

第28回日本管打楽器コンクールサクソフォーン部門において、史上最年少で第1位ならびに特別大賞を受賞。学生時代にCDデビューを果たす。2014年第6回アドルフ・サクソ国際コンクールにおいて、第2位を受賞。常に新たなプログラムにも挑戦し、サクソフォーンの可能性を最大限に伝えている。現在、演奏活動のみならず「題名のない音楽会」、「報道ステーション」等メディアにも多く出演している。第28回出光音楽賞受賞。昭和音楽大学の非常勤講師。The Rev Saxophone Quartet、ばんだウインドオーケストラコンサートマスター。

Information

◇CD『アドルフに告ぐII』（日本コロムビア）[3,000円+税/COCC-85478]が好評発売中。(収録曲) 藤倉大『ブエノ ウエノ』(初録音)、逢坂裕『ソプラノサクソフォンとピアノのためのソナタ エクスタシス』(初録音)、デュクリュック『ソナタ 嬰ハ調』、マルタン『バラード』、トマジ『バラード』  
 ◇YouTube「上野耕平 公式チャンネル」で、『宝島』をテレワークで合奏する企画「#上野合奏団 テレワーク合奏プロジェクト」を公開中。  
 〈第1弾〉<https://youtu.be/bWFWIZXP6E>

編集部メモ

首都圏（新宿・池袋・東京）と伊豆（伊豆急下田）を結んで運行された。前身は特急「あまぎ」と急行「伊豆」の統合によるもの。風景を楽しめる大きな窓が特徴で、車内の床は絨毯が敷かれており、展望席や個室、売店、更にはカラフルなクッションが設置されたこども室など、観光向けの設備が整っていた。2020年3月13日で営業運転を終了とした。



# One day, [ワンデー ワンモーメント] one moment

フォトエッセイ

写真・文：ヒダキトモコ

Photo・Text：Tomoko Hidaki

9 枚目

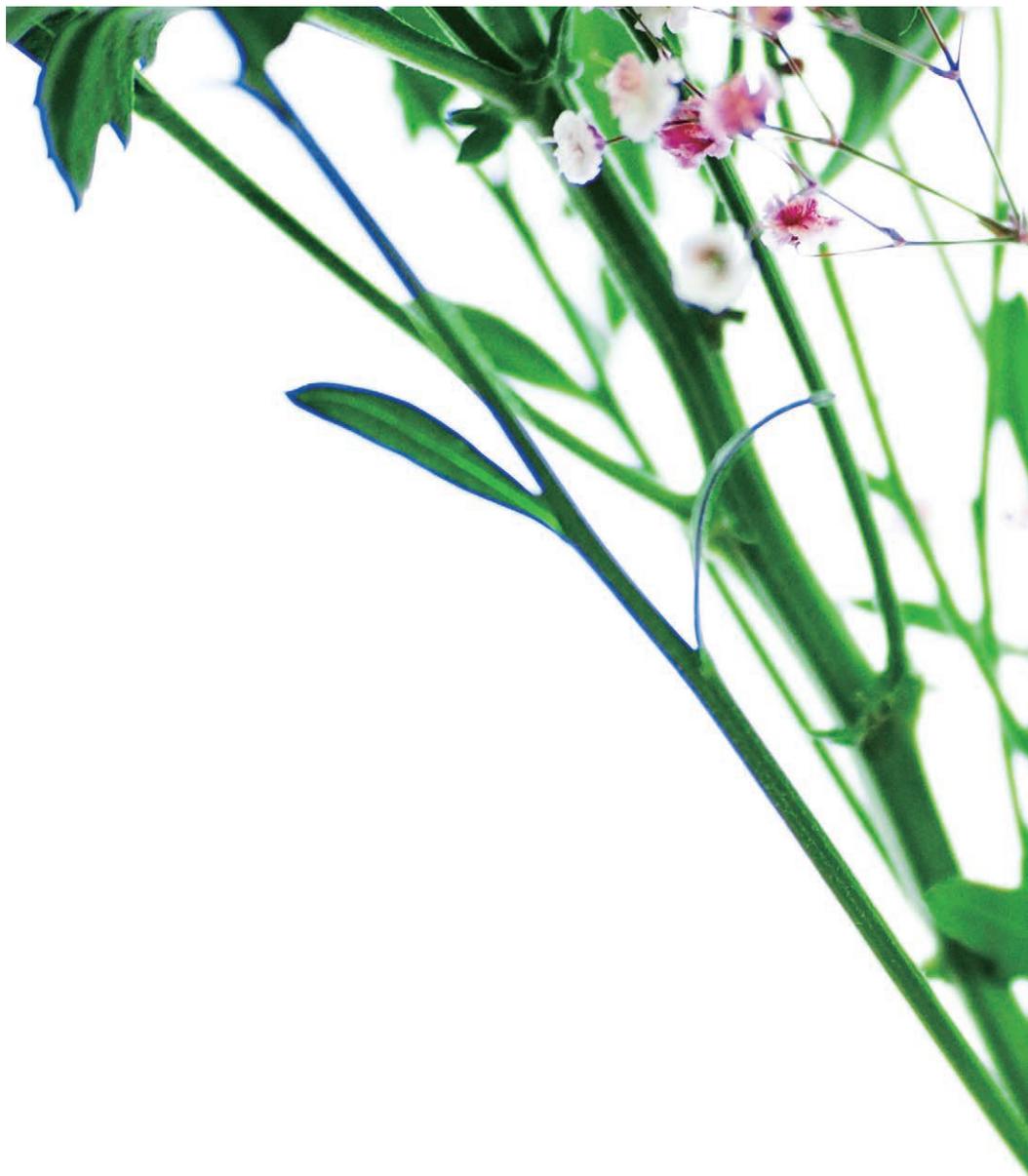
## 生きる力

---

近くの花屋で見つけたのは、自然の中に咲いているような、凛とした花々。以前カフェで手に入れた、外国のアップルジュースの空き瓶に挿す。無造作に手を離すと、ばらばらと束は崩れ、花屋に並んでいたときよりも、花達は自由に、のびのびして見える。それはもう名もない花でなく、すっかりうちの家族の一部になって

くれたような顔をして、瓶に注いだばかりの、新鮮で冷たい水をぐっと吸い上げる。

毎日はこうした一瞬の連続であり、生命力とは何気ない花々の明るい力強さである。



## ヒダキトモコ

写真家。日本写真家協会・日本舞台写真家協会会員。

東京都出身、米国で幼少期を過ごす。慶應義塾大学法学部卒業。会社員を経て写真家に転身。音楽誌・経済誌等の表紙・グラビア、各種舞台・音楽祭のオフィシャルカメラマン。ステージ写真、ジャケット写真、写真集等。

官公庁や企業の撮影も多数。撮影スタンスは自然体、人の内面的な魅力やイキイキとした写真表現を大切にしている。

<https://hidaki.weebly.com>



- 02 [特別企画1/エッセイ] 文字と音は「翼」になる(森沢明夫)
- 04 [特別企画2/オンライン学習応援コーナー #1] つくって、うたって、みんながつながる“ニジノエール”
- 06 [特別企画2/オンライン学習応援コーナー #2] 身近に楽しむオーケストラ
- 10 [連載] World Report vol.8 本場ウィーンの音楽文化に触れて
- 13 [連載] crossing 第7回 上野耕平
- 14 [連載] フォトエッセイ One day, one moment 9 枚目 ヒダキトモコ



<https://www.kyogei.co.jp/>

### 編集後記

『bouquet[ブーケ]』No.9をご清覧いただき、ありがとうございます。

巻頭ページでご紹介するのは、小説家・森沢明夫さんの書き下ろしエッセイです。

森沢さんの代表作は『津軽百年食堂』『夏美のホタル』『虹の岬の喫茶店(映画名:ふしぎな岬の物語)』など、数多く映画化されています。また、温かい世界が描かれた絵本も人気です。

作品を読んでも、温度や音、匂いまでもが伝わってきて、その物語を実際に体験したような気分になります。

今回は、森沢さんの大切な記憶を書き下ろしていただきました。

また今号は「オンライン学習応援コーナー」として、動画などをご紹介しています。

さまざまな工夫が必要となる昨今、お役立ていただければ幸いです。

お忙しい中、取材や執筆、編集にご協力賜りました全ての方に、心より厚く御礼申し上げます。

### staff

Art Direction & Design(表紙・本文):中澤美羽  
 協力(特別企画1):COTTON CANDY / 写真(特別企画2):佐藤雅英、藤井泰生、堀田力丸、三浦興一  
 写真(World Report):篠沢莉緒 / DTP:清新社 / 印刷:新日本印刷 / 製本:ヤマナカ製本